



北高夢ロード通信

第 17 号(2025.7)

組織の＜終活＞について

会長 波多野宏之

今年度総会では役員改選により 2026 年度までの新執行部を選出していただきましたが、顔ぶれはすべて再任です。なんとかあと 2 年間は会を存続させましょう、という含意のもとに踏みとどまっているのが偽らざるところです。前号でも触れましたように、会員も役員も高齢化し、世代交代が見通せないというのが最大の理由です。この 1 年で新たな展望(執行部人材)が見出せなければ、遅くとも来年度総会では最終結論を得る必要があります。こうした状態を迎えるのは多くの組織で経験するところであり、これが避けられないとすれば、いかにソフトランディングするかを熟考しておくほかありません。

私事ながら最近、関係組織からその活動の終了もしくは活動態様の変更について報告(打診)を受けました。その一つは、図書館や本に関わる民間活動を顕彰する組織「T[以下アルファベットで略記]フォーラム」——。1996 年に発足し 1999 年より毎年「T フォーラム賞」を授賞しており、本年の第 25 回をもってこれを終了し、組織自体も解散する、というもの。その理由として、図書館をめぐる環境の変化に対応した表彰コンセプトの再検討の必要があるが、現在の役員構成や事務局体制がそれを行えない、また、近年、組織と賞の創案者が相次ぐいで逝去したことも背景にあるようです。

他方、「F 会」は、大学学科の同窓会組織——。会費ではなく、通信費を納めると年 2 回会報が送られてくる。このシステムは 10 数年続いており、少額なので複数年分を振り込むよう要請されていました。その矢先、会報の郵送をやめ、メールによる PDF 版の配信に切り替える、よって、今後通信費は不要とする、というもの。

メールやホームページへの切り替えはよくあることであり、筆者など<文字は印刷物として読みたい>派には嬉しくはないが、経費節減策としてはやむをえないことでしょう。通信費複数年分を先払いしたのものには、払い戻し、寄付等の選択肢を設けており周到です(が、心の中では、複数年払ったのにそのすぐあとに手のひらを返したような方式変更は気持ちよくない)。

もう一つは、旧聞に属しますが、筆者が直接かかわった事例で「N 友の会」——。国際友好組織の関連団体で、有識者を招いた講演会を開催し、その概要をニュースレターで紹介するのが主な活動。1996 年に正式発足し、2009 年までの 13 年間に講演会を 40 回開催し、ニュースレター第 12 号を最終号として終了しました。会員数 20 余名の小組織で、会員の高齢化や会長空席が埋まらない、といった状況もあり解散に至りました。ただ、講演会の開催は母体である組織の関連団体で引き継がれるよう調整しました。

翻って「夢ロード」はどうするか。冒頭で触れましたように、新たな展望が見出せなければ 2027 年度末には解散のやむなきに至ります。運営体制が構築できないという最大の要因のほかに、高校(生)をめぐる環境の変化というまぎれもなく重い背景や、<ギャラリー夢ロード>の賃借が 2027 年度以降は不可となるといった個別の要因もあります。いずれにしても、会の組織そのものがなくなったあとも、個々の活動は可能な限り残すように努め、会員のみなさまとのつながりも(希望される方には)可能な方法で残すことを考えたいと思っております。既に下関北高同窓会執行部との意見交換も始めているところです。ここに例示した他組織の＜終活＞にも参考となるものがあると思います。また、会員諸賢のお考えなども聞かせていただければ幸いです。

ギャラリー夢ロード>第 24 回展 カフェ・リーブルの本棚展

2025 年 5 月 20 日(火)～6 月 1 日(日)、2 年前に始まった読書会「カフェ・リーブル」の参加者 13 名の蔵書から 487 冊を展示しました。「カフェ・リーブル」の「リーブル」は libre (自由、無償)、そして livres (本)。コーヒーを飲みながらアートの本棚>で語り合う会です。通常の読書会で紹介される図書からその人の関心のありようを窺うことはできますが、今回の展示は一人 30～40 冊というまとまった形で蔵書の一端を紹介しようという試みでした。



読書会の常連の全員ともいえる出展者 13 名の内訳は、夢ロード会員 7 名、非会員 6 名。男女比では、男性 8 名、女性 5 名。図書だけでなく本棚も原則自分のものを使用してもらい、都合のつかない方には、メンバーの一人がリング箱を提供してくれました。また、読書の雰囲気を出すようにと、丸テーブルや椅子を持ち込んでくれたメンバーもありました。出品図書の特殊性から、持ち込みの本棚ではなく、展示場のガラス戸棚に展示したメンバーもありました。『竹取物語』関係のみ 40 余冊を出品したメンバーは、専門的研究書の他に多数の絵本で棚を飾り、注目を集めました。(写真 右上) 昔話や絵本を中心としたメンバーは、クレヨンや色紙などの付

録を含む『コドモノクニ名作選』復刻版を棚に飾りました。



今回も下関北高総合文化部の生徒 7 名と校長及び同部顧問・副顧問教諭の来場があり、それぞれ興味を引いた本について感想を述べてもらいました。(写真 下)

別記<カフェ・リーブル>第 10 回、「音楽とお話の夕べ」を含めて来場者は 107 名とやや低調でしたが、下関市街地や豊浦町、宇部市等からの来場が目につきました。出品図書のうちで重複タイトルは『夜と霧』『嫌われる勇気』の 2 点だけで多様な分野にわたっており、学生時代に読んだ本などを巡って長時間語り合う姿もあり印象的でした。かねてよりアートの本棚>に順次会員の蔵書の一部を置く、といったアイデアもあり、今回を参考に新たなサービスを始められればと思っています。(波多野宏之)



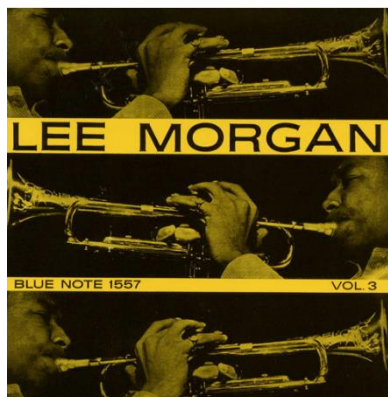
音楽とお話の夕べ

5月23日(金) Jazz 名演聴き比べ♪～ バラード編～(白岡勝典)

これまでの「ピアノトリオ編」では、各回、こんなトリオがいたのか！と驚かせられることもままあったが、今回の「バラード編」では、著名なグループによる名曲が揃っていた。全8曲のうち一、二をピックアップしてみよう。

『リー・モーガン Vol.3』から「クリフォードの思い出」が流れた。クリフォード・ブラウンは若くして自動車事故死した天才トランペッターであり、かつての同僚であったベニー・ゴルソン（このアルバムでテナー・サックス）が作曲し、モーガンが切々とトランペットを吹く。

25歳で死んだ天才を18才の若者が悼んだ・・・解説した白岡さんの言葉に、ああそうだったのか、と得心する。



『レフト・アローン』は、マル・ウォルドロン（ピアノ）の作曲で、彼が伴奏役を務めていたビリー・ホリデイを悼む曲。ジャズ・ボーカルの

の古典、彼女の「奇妙な果実」などの曲を思いながらきくと胸に迫る。選曲、解説共に素晴らしい一冊であった。（波多野宏之）



音楽とお話の夕べ

5月30日(金) 穂枝岳志(夢ロード会員) 「1975年の“グッドバイ”」

1975年(昭和50年)にはいったい自分は何をしていただろう。タイトルを見たときにまず考えた。そうか大学生として東京で貧しい学生生活を送っていたのだ。テレビもない狭いアパートで、唯一のぜいたく品のちっぽけなレコードプレイヤーで、数少ないLPレコードをかけたり、FENと呼ばれていた在日米軍向けのラジオ放送で洋楽を聴いていたりしたのだ。

従って、60年代から70年代にかけて流行った洋楽はほとんど知っているが、日本の歌曲は本気で聴いたことがない。それでも今回の選曲10曲のうち8曲はよく知っていた。アリスの「今はもうだれも」、バンバンの『いちご白書』をもう一度」などは好きな曲で、今でも口ずさめる。それだけ巷でよく流れ、自然に耳に入っていたのだろう。

だが、歌手の名前だけは知っているが、全く知らない、聴いたことのない曲が2曲だけあった。山崎ハコの「サヨナラの鐘」と森田童子の「さよならぼくのともしぢ」だ。しかも、森田童子は男だとずっと思っていたが、なんと女だったとは、自分の認識不足を恥じた。今回聴いた曲の中で一番良かったというかグッときたのが「サヨナラの鐘」で、さっそくこの曲の入ったCDを購入し、しばらく繰り返し聴いていた。このCDには五木寛之作詞の「織江の唄」も入っており、これも大きな喜びだった。

普段自分では聴くことのない様々なジャンルの音楽に出会えるのが、この「音楽とお話の夕べ」の意義深いところではないだろうか。秋には、フォーラム杜屋主宰の市倉さん選曲によるシャンソンが聴けそうです。（文責：白岡）

2025 年度総会報告

2025 年 4 月 26 日（土）14:00～15:00
滝部公民館で年次総会が開催された。議長に山崎陽子氏を選出。出席 16 名、正会員委任状 21 名の計 37 名で過半数となり、総会は成立。2024 年度事業報告案、同決算案、2025 年度事業計画、同予算案が審議され、いずれも異議なく可決。次いで 2025～26 年度役員選任に入り、自薦他薦での立候補を募ったが応募者なく、執行部案が提示され、全役員再任となった。その後の意見交換で、2 年後には会の存続が危なくなることや通学路に空き家が増え冬は帰宅時に真暗になるため、道路沿いの家の協力を得て夕方の通学時間帯に玄関灯などを点灯してもらいたいとの意見が出され、会として下市自治会に申し入れすることとした。（磯部珠枝）

2024 年度事業報告

- （1）下関北高に通学する生徒への傘貸与
事業を継続し、102 本を追加した（累計 1,023 本）。
- （2）＜アートの本棚＞による図書の閲覧貸出と図書展・読書会の開催
＜アートの本棚＞（旧笹尾商店）の公開を継続し、閲覧貸出サービスを行った。豊北小学校で図書展示を行い『アートの本棚通信』第 9 号を刊行したほか、読書週間に下関北高図書室で＜アートの本棚＞展示（10.27～11.9）を開催し、『アートの本棚通信』第 10 号を刊行した。読書会「カフェ・リーブル」を 5 回開催し、うち 1 回は、リアルとリモートのハイブリッドで実施した。
- （3）＜ギャラリー夢ロード＞による美術作品および音楽鑑賞機会の提供
展示会を 3 回開催し、第 21 回展でギャラリートークを 1 回、各展示で金曜日に＜音楽とお話のタベ＞を開催した（計 10 回）。

第 22 回展はギャラリーでの展示終了後、豊北生涯学習センターへ巡回して鑑賞機会の増加を図った。

第 21 回展「四季の日本画：我妻千賀子作品展」展（5.14～6.9 入場者 157 名）

第 22 回展「LP レコード・ジャケットとその時代 Part 2 フォーラム杜屋コレクションより」（11.4～12.1 入場者 141 名）

第 23 回展「笑顔と学び：下関市立豊北中学校生徒作品展 2025」（1.28～2.9 入場者 76 名）

（4）地域の歴史・民俗・自然環境等の調査・研究を通じた学習支援活動

豊北の水研究第 7 年次として下関北高授業「地域探究」へ、夢ロード独自の研究テーマ（アオノリ・モクズガニ養殖実験/海岸漂着物問題/栗野川流域の地質・生物）に沿って協力した。豊北小学校で「吊るし柿体験」を行った。モンゴル襲来紙芝居の作成を継続し、豊北中学校で 7 回公演した。第 8 回栗野川流域ホテル観察会を開催した（5.31 参加者 13 名）。豊北中学校での「個別指導による学力向上教室・数学（月 4 回）をサポートした。

（5）会報『北高夢ロード通信』の刊行

第 15 号（2024.7.20）、第 16 号（2025.3.20）を刊行した。

（6）下関北高との協同

総会後行事として「下関北高相撲部を励まそう」を開催した（4.27）。読書週間＜アートの本棚＞展示（(2)参照）、「地域探究」授業（4）参照）を実施した。県外在住会員を対象に『やまぐち応援寄附金』（ふるさと納税）の広報を仲介し下関北高への支援を呼びかけた。

（7）地域の関係機関・団体との連携

下関北高校同窓会等と連携し、下関北高校新入生祝意幕を掲示した（3.25～4.22）

下関市生涯学習センターへ第 22 回展を巡回した。（(3)参照）

しものせき市民活動センターの登録団体活動紹介パネル展に参加した。9.21～29,10.7～11）

（8）豊北の公共図書館サービス改善への取り組み

下関市立豊北図書館の利便性向上のため要望書を提出した。懸案の図書館案内道路標識が改修されたほか、新たに豊北総合支所への図書返却箱の設置（2025.1.6～）、豊北図書館（豊北中学校内）の屋上防水工事が実施された（2.1～28）。

（9）ホームページとリモート会議システムの運用

ホームページを継続して運用したほか、リモート会議システムを役員会、「カフェ・リーブル」で活用した。

（10）総会、総会後行事、理事会（年 5 回程度）の開催

総会是对面で開催した（4.27）。役員会は 4 回開催した（4.5*, 7.21, 1.28, 2.22*）。

*リモート開催

2025 年度事業計画

下線は新規事業

（1）下関北高に通学する生徒への傘貸与事業を継続する。

（2）＜アートの本棚＞による図書の閲覧貸出と図書展・読書会等の開催

＜アートの本棚＞（旧笹尾商店）の公開を継続し、閲覧貸出サービスを行う。

読書会「カフェ・リーブル」を隔月に開催し、活動の展開として「カフェ・リーブルの本棚」展を開催する。

読書週間に下関北高図書室で＜アートの本棚＞展示（10.27～11.9）を開催し、『アートの本棚通信』第 11 号を刊行する。

新たに下関市立図書館の団体貸出登録団体として活動する。

（3）＜ギャラリー夢ロード＞による美術作品および音楽鑑賞機会の提供

展示会を 3 回開催し、会期中にワークショップ、＜音楽とお話しのタベ＞等を実施するほか、ギャラリーでの展示終了後、展示内容によっては他機関へ巡回して鑑賞機会の増加を図る。

第 24 回展「カフェ・リーブルの本棚」展（(2) 参照）

第 25 回展 油彩画展（内容未定）

第 26 回展 北高成果展 2026

（4）地域の歴史・民俗・自然環境等の調査・研究を通じた学習支援活動

豊北の水研究第 8 年次として下関北高授業「地域探究」へ、夢ロード独自の研究テーマに沿って協力する。小中学生徒との協同も視野に入れる。

紙芝居による活動を継続する。

第 9 回粟野川流域ホタル観察会を開催する。

豊北中学校での「数学」（月 2 回）をサポートするほか、「折り紙同好会」開催の準備を継続する。

（5）会報『北高夢ロード通信』の刊行

第 17、18 号を刊行する（7、3 月）。

（6）下関北高との協同

学校の魅了を増進するための方策について、広く論議する場を設ける。

文化祭への参入のほか、読書週間＜アートの本棚＞展示（(2) 参照）、「地域探究」授業サポート（4 参照）を実施する。

県外在住会員を対象に『やまぐち応援寄附金』（ふるさと納税）の広報を仲介し、下関北高への支援を呼びかける。

（7）地域の関係機関・団体との連携

下関北高校同窓会等と連携し、下関北高校新入生祝意幕を掲示する（3 月～4 月）

下関市生涯学習センター等へ展示会を巡回する。滝部公民館祭りに参加する。

しものせき市民活動センターの登録団体活動紹介パネル展に参加する。

（8）豊北の公共図書館サービス改善への取り組み

下関市立豊北図書館の利便性向上のため、実態調査その他必要な活動を行う。

下関市立図書館の団体貸出登録団体として活動する（(2) 参照）。

（9）ホームページの運用

（10）総会、総会後行事、理事会（年 4 回程度）の開催

2025 年度総会後行事

総会後行事としての紙芝居「北浦蒙古襲来絵詞」（岡崎新太郎作・上演）は、豊北親子歴史教室を開く構想から、樋口州男氏が様々な資料を岡崎氏に送られて、始まったとのこと。これを基に物語、絵とし、それを一昨年には、滝部公民館まつりで、昨年度は豊北中学校で7回、「介護老人保健施設ももとせ」においても上演された。紙芝居は70枚にも上った。

上演された紙芝居は、

第1部 モンゴル帝国と文永の役 26枚

第2部 戦間期の日本・高麗・元 25枚

第3部 弘安の役と社会の変動 26枚

そのうち第3部は時間切れのため9枚までで終わった。一昨年見た時と比べると、はるかにきれいな色遣いになっており、楽しい絵本を読み聞かせてもらった気持ちになった。

北浦一帯にもモンゴル軍の侵入があり、今も豊北で残る「浜出祭」が、蒙古襲来に由来する鎮魂のために始まったとの説があることを知らなかったのは私ぐらいのものだろうか。

（戸田佐和子）

「音楽とお話の夕べ」交流会

＜ギャラリー夢ロード＞での展示に合わせ、金曜日の夕刻に開催する「音楽とお話の夕べ」――。2022年に始まってもう30回近くになります。常連さんも増えてきましたが、横のつながりが少ないと思い、気楽な交流会を企画しました。4月12日（土）、総勢16名が集い、桜もまだ残る豊北歴史民俗資料館前の広場でお弁当と飲み物で歓談しました。（古屋優）



第9回栗野川流域ホタル観賞会

6月6日（金）午後7:30 下関北高正門前の道路に面した川よりの広場に集合しました。毎年のことですが、広場の所有者の方が草をきれいに刈り込んでおられ、勝手に使わせていただいています。参加したのは下関北高からは教頭先生と理科担当の庄田先生と教育実習生3人、白岡さん、私の家族2人、私の計8人でした。説明の要点は①この川で昨年モクズガニを捕獲した。ホタルの幼虫とモクズガニが共に餌とするカワニナでつながる。②小高い森と川と田んぼとの環境がホタル生育に最適。③私の子供時代には家の近くでホタルの乱舞が見られた。失ったのはホタルに関する日本の文化である。④山口市一の川のホタル護岸の工事とホタル復活の事例の説明と身近な場所でのホタル復活の足がかりを作ろうという勧め。

神出川上流にさかのぼり、名井さん宅の前のあたりでたくさんのホタルを見ることができました。名井夫人が家から出てこられて「一昨日はたくさんのホタルが出た。昨日は少なかった。今日は多い。北高生のホタル観察、今年はまだかな心待ちしていた。」のお言葉をいただきました。風がなく、蒸し暑いのがホタル出現に幸いしましたようです。

下関北高正門前の滑川と神出川の合流地点は生態系の観察、研究に最適の場所であり、今後下関北高の科学部ができて、そのクラブの長期研究のテーマになればと期待しています。その理由は以下の通りです。①学校に近い②動植物、水、岩石、土地、すべて楽に手に取り、また観察できる。③ホタル観察、モクズガニの捕獲の経験がある。④豊北小、豊北中も近くにあり、小中の子供たちの参加もたやすい。町民のサポートも受けやすい。（岡崎）

変化を受け入れる

～読書会「カフェ・リーブル」のこと 4～

第10回を迎えた読書会は「カフェ・リーブルの本棚」展の開催に合わせ、5月24日(土)＜ギャラリー夢ロード＞で行われました。参加者は展示会出品者全員の13名(うち2名はメール参加)。来場者も同席される等、今までとは少し違った回となりました。毎回各自が1～数冊を紹介しますが、今回は背後に数十冊の本(＝読書歴)が控えていたことから人となりや大切にしていること等が垣間見え、一層興味深いものでした。その人が歩いてきた轍を本棚に見るような感じとでも言いましょうか・・・。

ヒトには生きていくための術として、変化を嫌ったり、怠ける本能が備わっているようで、読書においても好きな作家やジャンルに偏りがちになることは当然なのかもしれません。それでも、様々な経験や出会いを通じて嗜好が変わることがあったり、1つのテーマを深く追求すれば様々な作風に出会ったり、同じ本でも読むたびに新たな発見があったりと、流れる川のようにとどまらず変化し続けています。紹介型の読書会には、自分の守備範囲を大きく逸れた本に出会えること、自分が勧める本を紹介することで新たな価値観を見出せるなどの醍醐味があります。あなたが紹介する本が、誰かの人生を劇的に変えることもある??次回のカフェ・リーブルは9月20日(土)です。是非、皆さまのご参加をお待ちしております。(溝口あや)



児童と大人の読書会、豊北小学校で

豊北小学校の校長先生から、「児童と大人の読書会を開くので、参加しませんか。時にはく読み聞かせ>もします。一般の方は聞き役で・・・」。こうして、今年の1月から毎月1回(原則)月曜日の昼休み、学校に足(軽トラ)を向ける。食事が終わった後の15分間、児童が本を手にしてランチルームに入ってくる。日によって人数はまちまちで数名のことも、20名近くになることも。1年生が多いようだ。児童も大人も各自の本を黙読するのだが、時には上級生が周りの数名に読み聞かせをすることもある。大人の参加は、今のところ夢ロード会員が2～3名、ほかに1～2名。あっという間に過ぎてしまうが、児童と交わす言葉の断片や、残りの休み時間を校庭で跳ね回る児童や先生の姿に、今年豊北町全体で新入生僅か24名という現実を改めて実感させられる。小さい頃から読書習慣を身に着けるのは大事なことだと思う。(古田雅士)

下関北高、読書活動で文部科学大臣表彰

本誌今号に同封の『下関北高校だより』(5月9日)掲載のように、同校の読書活動が文部科学大臣表彰を受けました。表彰理由は、地域と連携した読書活動で、本会設立当初からの読書週間＜アートの本棚＞北高図書室展示(近年は、図書委員が来場して選書した本を展示する)や2017年度から実施している＜先輩の本棚＞の活動が含まれるとのこと。後者は、本会が仲介して卒業生の著作を寄贈する活動で、同校では図書室に同名の書架を設けて、生徒への注意喚起をしています。今回の表彰は、図書室担当教諭の熱意も大いに与ってのことだと思います。＜先輩の本棚＞のサービスは引き続き行っていますので、新たに著作を刊行された方はご一報をお願いいたします。(波多野宏之)

2025～2026 年度役員

- 会 長 波多野宏之（豊北高校昭和 39 年卒業
下関市豊北町在住）
- 副会長 岡崎新太郎（豊北高校昭和 39 年卒業
下関市豊北町在住）
- 監事 永富 輝久（豊北高校昭和 40 年卒業
下関市豊北町在住）
- 理事 磯部 珠枝（下関市豊北町在住）
- 理事 城石 郁裕（豊北高校昭和 39 年卒業
千葉県松戸市在住）
- 理事 白岡 勝典（豊北高校昭和 48 年卒業
下関市豊北町在住）
- 理事 戸田佐和子（豊北高校昭和 43 年卒業
下関市豊北町在住）
- 理事 藤岡 達雄（豊北高校昭和 47 年卒業
下関市豊浦町在住）
- 理事 古田 雅士（下関市豊北町在住）
- 理事 古屋 優（豊北高校昭和 40 年卒業
下関市豊北町在住）
- 理事 溝口 あや（下関市豊北町在住）

役員等の分担

事務局：磯部珠枝

会計：溝口あや

広報（会報編集）戸田佐和子

会報編集委員会：

戸田佐和子、穂枝岳志、白岡勝典、村上智子

ギャラリー企画委員会：尾湯正美、小田善郎*

（美祢市在住）、川原一夫*（豊北町在住 新任）、白岡勝典、西嶋勝之*（大津市在住）、波多野宏之、藤岡達雄、古屋優

*会員外

栗野川の水研究委員会：

岡崎新太郎、白岡勝典、藤岡達雄

上記分担は 6 月 21 日の第 2 回役員会で承認

下関北高新入生祝意幕を掲示

本年も同窓会と共同で、3 月 24 日（月）～4 月 21 日（月）まで、祝意幕を滝部駅、下関市役所豊北総合支所など通学路 4 か所に掲示しました。

＜アートの本棚＞で団体貸出サービス開始

本年 5 月より、本会を借り受け団体として下関市立図書館の団体貸出サービスを受けることになりました。最大 100 冊を 1 か月間借り受け、＜アートの本棚＞から借り出すことができます。リクエストも受け付けていますので、詳細は下記へご連絡ください。

問い合わせ：080-7749-7756 ＜アートの本棚＞

＜ギャラリー夢ロード＞第 25 回展示予定 後藤愛郎作品展（仮題）

2025 年 11 月 4 日（火）～16 日（日）（予定）

会費納入のお願い

2025 年度会費を未納の方は、同封の振替用紙でお振り込み願います。正会員：2,000 円
郵便振替 口座記号：01350-1 口座番号：106942

加入者名：北高夢ロード実行委員会

北高夢ロード通信 第 17 号（年 2 回刊）

2025 年 7 月 20 日発行

編集：会報編集委員会（戸田・穂枝・白岡・村上）

発行：北高夢ロード実行委員会

〒759-5511

山口県下関市豊北町滝部 218-5

Tel：083-782-0084

ホームページ：http://yumeroad.org

E-mail：kitakoyumeroad@gmail.com